

# ふるさとを愛し ふるさを誇りに思う 子どもの育成をめざして

地域の  
特色ある  
活動

## 宮城県大崎市教育委員会

### 1 はじめに

宮城県大崎市にある古川駅は、仙台市から東北新幹線で北へ向かい約15分、東京から約2時間の距離に位置し、宮城県北部の中心的存在となっています。

平成18年3月に近隣の6つの市・町が1つとなり、東西約80kmに及ぶ大きな市となりました。

その大崎市に近隣の4つの町（色麻町、加美町、涌谷町、美里町）を含めて、「大崎耕土」と呼び、2つの河川流域に広がる河川氾濫原を拓き、水田農業地帯として発展してきたのが本地域です。今から430年前、本地域の岩出山に居を構えた伊達政宗公の先見性を

もった農業政策を背景として、豊饒な大地として発展してきました。

そして、平成29年12月12日に国際連合食糧農業機関（FAO）より、世界農業遺産に認定されました。

### 2 世界農業遺産とは

世界農業遺産とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形づくられてきた伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれた文化、農村景観（ランドスケープ）、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農林水産システムを国連食糧農業機関（FAO）が認定する仕組みです。

大崎地域では、特に次の4点について高い評価を受けました。

- 1 巧みで重層的な水管理
- 2 生物多様性を育む持続可能な水田農業
- 3 農業と結び付いた伝統的な農文化
- 4 水田や水路、ため池、屋敷林「居久根」が織りなす豊かなランドスケープ

本地域では、世界農業遺産の認定を契機として、多くの市民や地元企業、消費者団体などの多様な主体が参画する仕組みを構築するため、アクションプランを策定し、取組が始まっています。

### 3 ふるさとを愛し、ふるさを誇りに思う子どもの育成をめざして

大崎市では、これまでも「ふるさとを愛し、ふるさを誇りに思う子どもの育成」を



大切にしてきたところであり、この認定を弾みとしてさらに充実した内容を加え取り組んでいます。

ここでは、例としていくつか学校の取組を紹介します。

#### (1) 「身近な環境での学び」(古川西中学校)

古川西中学校1年生40名は、近くの屋敷林「居久根(いぐね)」で学習をしました。居久根は樹齢120年の樹木もあり、代々受け継がれた生活の知恵が詰まっていることや、北風から家屋を守るため北側が厚くなっていること、カエルや虫もいっぱいいて、生き物が繋がっていることも学びました。

生徒は、「洪水や台風などの風が来たとき、居久根が役に立つことを学んだ」「居久根を含めた緑を壊さないように、しっかり大切にしていきたい」「地元の世界農業遺産があることを幸せに思う」と話していました。



#### (2) 「大崎耕土課題研究」(古川黎明高校)

古川黎明高校では、1年生120名が総合的な学習の時間で、「大崎耕土課題研究」に取り組んでいます。6月には5つのカテゴリー(農業生物多様性・食文化・水管理・歴史文化・栽培技術)に分かれて、現場研修等の校外学習を実施し、生徒の興味あるテーマについて課題研究を進めます。テーマの例としては、「トンボと農業の関わり」「灌漑施設の歴史～過去と今の相違点～」などです。

生徒は、地域の中にある歴史ある環境や事象に直接触れ、「大崎市の農地整備の取組や、農薬使用量について初めて知ることができ、トンボの生態から生物多様性への考えを深め



ることができた」「普段生活しているだけでは歴史など学ぶことは少ないので、周りがある『内川』について知ることができ、ありがたみが増した。何度も作り直され、現在の姿になったことも知ることができた」などと感想を述べました。

その他、現在、教材として活用できる「副読本」の作成に取り組んでいます。単に、教室の中でだけ活用する読み物教材とするのではなく、フィールドでも使えるものにしたいと考えています。現場のフィールドで探索したり、クイズに答える内容があったり、大人でも十分楽しめる内容に仕上げたいと考えています。

## 4 おわりに

これらの教育活動の他にも、「世界農業遺産ツアー」の企画に次のようなものがあります。

- ① 宝の都(くに)・おおさき大人の遠足  
—『世界農業遺産』を訪ね歩こう—
- ② 大崎市グリーンツーリズム体験事業
- ③ マガンがつなぐラムサール条約湿地を巡るバスツアー

関心のある方は、大崎市世界農業遺産推進課にご連絡いただき、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。



教育長  
熊野充利